

8/29 幡豆地区 平成29年度「市長と語る市政懇談会」意見・質問等一覧〔事前提出分の再質問・自由意見等〕

整理番号	事前提出分の再質問・自由意見等 当日お聴きした意見等（題名）	（内容）	【回答】	担当課
1	デマンド型タクシーの運用	<p>【質問】 今まで西尾市として、校区内ということで決まっていたのですが、目的地までという話がありました。れからはそのように変更してやっていいですか。</p> <p>【意見】 私は、名鉄という公共交通は大事だと思いますが、歩けないような人が西尾市民病院へ行くのに、なぜ直接病院までタクシーを使ったらいけないのでしょうか。そういうことは一切聞き入れてもらえなかったです。その辺について、今、市の職員の方の反省の弁というのか、主張をお尋ねします。</p>	<p>デマンド型タクシーについては、市全体で基準がありますが、現在の仕組みでは、各校区で協議会を立ち上げていただく中で、自分の校区では、もう少しそのサービスをこのように変更してほしいというご要望があれば、それを市と一緒に考えていく中で変更していくことができます。ただし、幡豆にお住まいで、例えば平坂の目的地まで行けるかというと、現実的になかなか難しいのですが、幡豆地区の中で生活されていく中で、特に用事が多い、スーパーマーケットとか医療機関とか公共施設とか、そうしたところについては、今の基準だと行けませんが、行けるような形での改善というのはできますので、そうしたところと一緒に地区の方々と考えながらサービスの改善を図っていきたいと考えています。【市長】</p> <p>名鉄は、この幡豆地区だけではなく、西尾地区に基幹交通として、ものすごく地域の発展等にも絡む大きな公共交通であります。西尾市民病院まで直接行けないということがありますが、それは幡豆だけではなく、ほかの地区の皆さまも同じで、公共交通というのは、うまく乗り継いでいただいて、特に歩けない方のためではなく、一般の生活の中でご利用いただけるような足の確保ということを網のように結びつけていくというのが理想と考えております。名鉄西蒲線を大事にするというのも、地域振興の部分からありますが、やはり片方の公共交通を使ってしまうと、市が両方にダブった支出をするということになってしまいますので、効率的な公共交通を再編していくということも非常に大事だと考えております。</p>	地域支援協働課
2	公共交通のあり方	<p>【意見1】 くるりんバスというのは、もともと従来の西尾市でやっていたことです。その西尾市に合併した以上は、西尾市全体として、くるりんバスやデマンド方式を考えるべきではないのですか。合併して、西尾市という1つのまちを、またわざわざ細分化するという考え方というのはどうかと思います。</p> <p>【意見2】 くるりんバスなどについては、校区内のことしか考えたらいけないというところから話をされているものですから、地区で路線をまとめて出そうとか、そういう気にはならなかったというのが本音です。</p>	<p>デマンド交通いこまいかーについては、基本的には市内全域を回ると、その経費の部分や効率性の部分でどうしても採算性が悪くなるので、ある程度、例えば中学校区などでの移動という形の位置づけになります。しかし、くるりんバスについては、幡豆地区だけで回らせるのがいいのか、そうではなくて、市内全体のバス路線のあり方としてどうすべきかというところは、もっと市として考えないといけないと思っています。少し時間がかかりますが、しっかりもう1回考え直してほしいと担当部署に指示をしております。【市長】</p>	地域支援協働課

8/29 幡豆地区 平成29年度「市長と語る市政懇談会」意見・質問等一覧〔事前提出分の再質問・自由意見等〕

整理番号	事前提出分の再質問・自由意見等 当日お聴きした意見等（題名）	（内容）	【回答】	担当課
3	名鉄西尾・蒲郡線の存続への取組	<p>【質問】 名鉄蒲郡線についての質問です。 1点目は、この蒲郡線のことを西尾市のホームページで探すことができません。蒲郡市では見つかります。蒲郡線で検索をかけますと、交通、防犯から出てきます。ホームページなどというのは非常に強力な媒体であり、なぜそういうことを西尾市ではしないのでしょうか。西蒲線応援団というブログがありまして、そこにリンクされていましたが、一体行政は、その中でどのような取り組みをしていますか。 2点目は、にしがま線げんき戦略という資料があります。幡豆は名鉄蒲郡線の中では四つも駅を持っている地区ですが、それについて触れるところはほとんどありません。その中で「利用促進事業として、以下の内容を行う」というのがあります。これは、平成28年度に事業を策定して、平成29年度からその事業を実施するというように書かれておりますので、一体どのように実施されているのかをお聞きします。また、レンタサイクルの活用事業を進めるということになっております。幡豆地区の各駅でどのようにレンタサイクルをされるのかお聞きします。</p>	<p>1点目に関しては、ご提案どおり、どこからも入れるようなサイトを目指して、構築をし始めているところです。 2点目ですが、商工会や青年会場所、観光協会などと力を合わせ、いろいろな資源に付加価値を付けていくよう、例えばおみやげ物だとか体験ツアーをつくるといったことも発案していただけるような枠組みを昨年度に起こしました。誘客推進部会ということで、こちらでワークショップを始めさせていただき、誘客推進を行い、利用増進を図ってまいりたいと考えております。</p> <p>ホームページは、非常に効果的な媒体だと思います。構築中ということなので、もう少しお待ちいただければと思います。 西蒲線の利用促進について、就任後、蒲郡市長とお話をさせていただきました。蒲郡としても蒲郡線をどう存続させていくかというのは非常に大事な問題だと考えているということで、もっと密に連携をとりながら、お互いの取り組みで、いいところは取り入れるとか、両市の問題としてもっと深く考え、まずは守る中で利用者を増やすということと、中長期で見て、この路線をどうしていくべきかというところは、蒲郡市としっかりと連携を図りながら取り組んでいきたい思います。【市長】</p>	地域支援協働課
4	補助金のカットと市職員の地域手当、ボーナスの増額	<p>【質問】 補助金が5%カットされましたが、市職員の地域手当、ボーナスが去年上がったと思います。その辺のことはいかがでしょうか。</p>	<p>平成23年4月1日の合併による合併算定替特例で、西尾市の場合、平成23年度の決算で約28億円、この特例で普通交付税をいただいております。特例ですので、今年から5年間かけて、その28億円が、1年目は9割、2年目は7割、3年目は5割、4年目は3割、5年目は1割と、5年かけて減っていきます。このことから、経常経費について、前年度の95%を上限に予算要求するというお願いを各部署にしました。補助金も削減の対象にですが、一律に5%カットということではなく、極力、市民の負担増だとかサービスの引き下げにならないように配慮して、予算編成はいたしております。</p>	財政課
			<p>公務員の給与は、人事院勧告という制度がありまして、基本的にこれに従って給与改定を行っております。地域手当に関しては、この人事院勧告に従いまして、現在10%まで引き上げております。ボーナスについては、その年ごとに上がったり、下がったりということですが、今年度については微増というような状況となっております。</p>	人事課
5	町内会の報酬	<p>【要望】 今の町内会は、幡豆町のときは駐在員と言われておりまして、幡豆町も財政が苦しい中、報酬を出してございました。合併した時点で、おそらく3分の1ぐらいになっていて、仕事は倍あると思います。広報も月に1回でしたが、2回あるなど、いろいろな仕事があると思いますので、町内会の報酬を見直していただきたいと思っております。</p>	一律に上げるというのではなくて、コミュニティというのは非常に大事な地域力でありますので、例えば、いろいろな考え方、指標があると思いますが、そうしたものを今から反映した制度を検討していただければいけないということで、検討させていただく予定であります。	地域支援協働課
6	市政運営	<p>【質問】 増山副市長が8月末、小島副市長が9月13日に退任されると新聞で見ました。それで、9月議会はやっていけますか。</p>	<p>非常にお答えがしづらいところではありますが、小島副市長については慰留をしているところであります。今日の記者会見でこのようなことは想定していなかった部分がありますが、できる限り市政運営に支障が出ない形でやるのが大事だと思いますので、そうした観点から自分自身で行動していきたいというところであります。【市長】</p>	

8/29 幡豆地区 平成29年度「市長と語る市政懇談会」意見・質問等一覧〔事前提出分の再質問・自由意見等〕

整理番号	事前提出分の再質問・自由意見等 当日お聴きした意見等（題名）	（内容）	【回答】	担当課
7	文化振興	<p>【質問】</p> <p>新市長は、文化にも力を入れたいというように聞きました。文化活動をやっていると、芸能に参画する人が施設に行き踊りをすると、踊る人も健康を維持するといった意味でいろいろな効果、価値があると思っております。文化に力を入れるのか、入れないのか、回答をお願いします。</p>	<p>例えば今の世の中、会社員が多いです。そうすると、なかなか日常生活だけで、時間に追われて精いっぱいだったりとか、子どもが小さかったら子育ての中で、なかなか精神的にゆとりがない方がたくさんいるのかなという認識でいます。そうした中で、文化面というのは、やはり情緒豊かに生活していく中では非常に重要なことでもありますので、決してその文化を軽視するとか、そういったことは考えていません。ただ、お金のことになると、特定の分野につけますとか削りますとかいうのは明言できないところではありますが、非常に大事なところであるという認識ではあります。【市長】</p>	文化振興課
8	動物愛護と環境保全	<p>【意見】</p> <p>1つ目は、動物愛護センター、それにかわる施設を設けてもらいたいということです。東日本大震災のときに、ペットの置き去りが大変問題になり、環境省が「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」というのをつくられたのですが、この中で、ペットの同行避難というのが推奨されています。また、少し面倒見てもらえると、1か月、2か月ぐらいたると、犬も慣れてきて家庭犬として復帰することができるようになるので、ぜひこういう施設を、場所を設けてもらいたいということをお願いしたいです。</p> <p>2つ目は、行政から、犬を飼っている人だけではなくて、飼っていない人にも意識の改革を行ってほしいということです。西尾市は犬を飼っている人が多いです。迷子にさせないだとか、行方不明になったらどこに連絡するか、飼っている人も知らないことが多くということです。あとは、殺処分現状を伝えていただきたい。次の世代を担う子供たちにも、小さな命の尊さや心を伝えてほしいと思います。ボランティアだけでは本当に限界を感じています。ぜひ行政と連携をとって、協力をしてやっていきたいことだと思っています。</p>	<p>1点目の動物愛護センターのようなものについては、なかなか管理運営から施設を建てるというのは、すぐにここで返事ができることではないと思います。こういうご意見があったということは、今後の行政の中で十分考えていきたいと思っています。</p> <p>それから、やはり一般市民の方には、犬を捨てない、それから迷子になったときの犬の場所をどういうところで確認するだとか、動物愛護センターだ、警察だ、市役所だというようなことで、そういう情報についてはすぐにでもできることですので、今後進めていきたいと考えております。</p> <p>西尾市では、犬を飼っている軒数も多く、1万頭余りあります。捕獲の頭数も多いというのは、実績として出ている情報です。やはり犬を捨てないということがまず大事ですし、飼育についてのPR活動については、すぐにでもできることについては対応していきたいと考えております。</p>	環境保全課
9	津波対策の命山	<p>【意見】</p> <p>一色や吉良の西部では、地震があり津波がきた場合の対策というのがあまり進んでいないような気がします。命山をつくっていったらどうかと思いますので、検討をお願いします。</p>	<p>命山に関しましては、中村市長が、命を守る対策というのは非常に重要だということで、現在、危機管理局で前向きに検討しているところです。津波浸水避難シミュレーションでは、多くの方々が津波による避難を余儀なくされるという中において、避難所となる公共施設が足りなかったり、あるいは津波一時待避所が不足しているというのが明らかになってきております。命を守る対策ということで、命山、あるいは津波タワーというようなことも、今、危機管理局でも市長を交えて検討に入っているところであります。</p>	危機管理課